

平成29年度第1回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日時：平成29年9月4日（月）

午後2時～午後4時

会場：三木市役所4階特別会議室

平成27年度に策定した「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」（以下、「創生計画」という。）に基づく施策等の効果検証及び計画の見直し（ローリング）を実施するため、平成29年度第1回の三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。会議における主な事項は、次のとおり。

説明事項

三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（第2版）の概要

協議事項

1. 地方創生関係交付金の事業及びKPIについて
2. 三木市創生計画の改定について

概要

地方創生関係交付金を活用した事業のうち、平成28年度に検証済みの「先行型」を除く「加速化」、「推進」、「拠点整備」交付金にかかる事業及びKPIを中心とした進捗状況等に加え、市として創生計画に位置づけられ進めてきた一部事業の見直し方針等について委員に説明し、事業の効果検証及び意見交換を行った。

今後の進め方

庁内において創生計画に位置づけられた施策の効果検証とともに事業の見直しや新たな施策の検討も行いながら、創生委員会での意見交換を踏まえ、平成29年度末に第3版として創生計画を見直していく。

なお、KPIについては、実績数値が現時点で把握できない項目もあるため、次回以降も引き続き検証を進めていく。

主な意見

- ・創生計画の見直しの方向性の中の一つとして、緑が丘駅前の集合住宅建設計画の再検討とあるが、駅周辺は高齢者住宅というより、神戸方面に通勤、通学される若い世代が住めるようにした方がよく、高齢者にとっては、スーパーなどの商業施設周辺が望ましいのではないかと。こうしたことも含めた再検討としてほしい。
- ・良い企画も周知するための内外に向けた広報活動が重要。市民向けの広報と外向きの広報をどのようにしていくかがポイント。
平成28年にリニューアルオープンしたネスタリゾート神戸は大きな情報発信の場。施設内に市の観光ギャラリーが設置されているとのことであるが、市外から来られた方に三木市をPRする絶好の場であるので、わかりやすい発信を実践するなど活かしてほしい。
- ・吉川地域にも観光資源がたくさんあるので、そこにも目を向けた施策を。
- ・人口減少を抑えるための主なターゲットとして、市内の女性や市内外の子育て世代をメインターゲットとしている割に施策に反映されていないのではないかと。
- ・三木ならではのものとしては、「金物」、「ゴルフ」、「山田錦」。
全国の自治体で似たような施策が多いので、付加価値を高め、他にないものに集中的に取り組むのがよいのではないかと。
助成や支援施策の充実などサービス合戦になると最終的には体力（財政力）がある自治体へ流れてしまう。
ある程度は他の地域に対抗して進めることも必要ではあるが、そこを追求していくのではなく、核となる施策に集中し、力を入れるべき。
- ・創生交付金を活用した施策の効果検証にあたり、KPI目標が産業全体をさすような指標であると、他に取り組んでいる既存事業もその効果を担っているにもかかわらず、新規に取り組んだ事業だけによる効果だと誤解が生じる。個別のKPI設定等が必要であったのではないかと。
- ・人口減少の中で日本の経済はパイが減少していく状況。どこに対し、どういう風に、何を売るかを戦略だてて取り組む必要がある。
経済産業省でも新たな施策として「地域未来投資促進法」があり、地域経済を支える頑張る事業者と地域がタッグを組んで進めようとする事業を応援する取組を始めた。市としてもそのような取組を後押しできるような枠組みを考えてほしい。

- ・人口減少対策としては、自然増や社会増についてピックアップしがちだが、交流人口も一つの要素。市内イベントに集まる交流人口を継続的に市へ呼び込む仕掛けづくりが必要。
- ・三木の一大イベントである金物まつりには、16万人もが来場されている。それだけの交流人口が集まるのであれば、この機会をチャンスと捉え、市内への周遊や市を訪れるリピーターにつなげる方策が必要。どこから、どのように人が集まっているのか交流人口の動きにも注目をしてはどうか。
- ・市内の観光地や新たにオープンしたネスタリゾート神戸など観光客が多い施設もある。地元の商店や施設など身近なものにいかにつなげていくか今後検討してほしい。
- ・兵庫県の北部など降雪の多い地域では、小学校、中学校の義務教育の授業の中でスキーなど地域ならではの授業を実施している。
三木はゴルフのまち。ゴルフを授業に取り入れてはどうか。
- ・ゴルフ場に年間100万人以上の集客があるのは大きく、リピーターも多いはず。ゴルフトーナメントだけでなく、ゴルフ場とタイアップしたイベントを検討できないか。
- ・金物のまちである一方で、どこで金物商品が買えるのかがわかりにくい。PRが必要。
- ・三木の特性を活かした既存産業の振興として金物や山田錦が前面に出てくるのは当然だと考えるが、一方で企業誘致などによる三木の特性以外のしごとづくりも必要ではないのか。
- ・山陽自動車道三木サービスエリア周辺にスマートインターの設置に向けた準備が進められており、働く場を上手につくるなど活用策を考えるべき。
- ・消滅可能性都市という言葉が数年前に出て、地方創生の名の下、全国の自治体が人口減少対策として創生計画を策定している。
地方創生というキーワード以降、「女性が活躍する社会づくり」、「一億総活躍社会」、最近では「人づくり革命」であるとか、新たなキーワードが出ており、社会で地方創生や人口減少対策への関心が薄まっている傾向にあるようだが、人口減少は、まだまだ安心できる状態ではないので、創生計画を今後もしっかりPRしていくべき。